

会社を守る法律講座

第10回

顧問弁護士の賢い選び方

——顧問弁護士を依頼する場合、どのような点に注意して選ぶべきですか。

前田 実力不足の弁護士は問題外ですが、そのような弁護士に当たったのであれば、あっさり顧問契約を解約すればよいだけのことで。相性が合うかどうかが一番のポイントです。

——相性とは具体的にどのようなことでしょうか。

前田 顧問弁護士を依頼する会社の実情、ビジネスの内容、経営者ご自身の個性などによって異なりますが、例えば、法律問題が発生し、経営者が徹底して闘うと決意したのには、和を以て尊しとするタイプの顧問弁護士では、相手方に一方的に押され、内堀、外堀がどんどん埋められていく事態にもなりかねません。争いを好む弁護士が適切とは思えませんが、紛争やトラブルはうやむやにせず闘わなければ解決できないという場合も少なくないからです。

——きちんと話を聞き、身内のように親身になってくれる弁護士が良いと聞きます。

前田 そのとおりです。しかし注意しなければならぬのは、顧問弁護士は、経営者の愚痴を聞く

とか、同情をしてもらうために依頼するわけではないということですね。経営者と顧問弁護士は、問題解決に向けて常に協働作業をしていく関係でなければなりません。

依頼者は、自分の置かれた状況を全て知っておく必要がありますし、そのために弁護士は、トラブルの個性や特殊性を具体的に把握し、今後どのように解決するのが適切か、依頼者にきちんと説明できることが不可欠です。

——しかし解決といっても、何を問題にし、何を聞けばよいのかわかりません。

前田 ふと不安や悩みが脳裏をよぎったとき、気の向くままに相談すればよいのです。経営者は法律の専門家ではないので、法律問題が発生しているかどうか、認識できるかは限りません。しかし弁護士に相談することで、法律問題

の存在を明らかにすることができず。また、経営者本人が思っているのと別の問題が発覚し、ただちに対処しなければならぬことも出てくるでしょう。悩みを相談することで、ムダなストレスを軽減することにもつながります。

——弁護士とコミュニケーションをしながら、解決していくというのですか。

前田 良い顧問弁護士を探すのは、最高の治療を受けるために名医を探すのと似ています。とにかく弁護士と会ってみなければ始まりません。当事務所でも、会社の規模、実情に応じた内容の顧問契約制度を用意しております。まずはご連絡ください。初回面談は無料に対応しています。(0120・48・1244)。



弁護士 前田 尚一

1959年11月22日生まれ。北海道札幌市出身。札幌医科大学法学部卒業。札幌医科大学法学部教授。札幌医科大学法学部教授。札幌医科大学法学部教授。